

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家熱海 花ユニット		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成24年8月13日	評価結果市町村受理日	平成24年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・運営理念である『そとよりそい 共に寄りそう』の具現化に取り組み「食事を楽しむためにできる具体的支援」「用を足すためにできる具体的支援」「入浴を楽しむためにできる具体的支援」についてマニフェストを作成。方向性を一つに目に見える支援を目指します。</p> <p>・施設に入っても「諦めなくていい」本人がこだわっている事、大切にしている事を続けられる環境づくりに心がけ、今までの生活の延長で、自分らしく暮らしていられるよう支援します。</p> <p>・地域の行事等に積極的に参加し地域の方との交流を大切にしています。</p> <p>・ご家族から感謝の言葉を戴き職員への励みとなり、より良いサービス提供に繋がっている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成24年9月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営理念の「利用者のおもい」に寄り添うように、職員でマニフェストを作成し、職員同士で話し合いの場を設けて介護の質を高めています。また、管理者や職員は入居者一人ひとりにゆとりを持って接しているため、入居者は穏やかな表情をしています。食事はすべて手作りで入居者と会話をしながら準備や片づけをしています。できるだけ入居者に外出や散歩をして気分転換をしてもらえるように心がけています。また、運営推進会議では情報を開示し、参加者からも意見を伺っていて、新聞の発行や回覧で事業所の現状を地域住民に知らせて、地域行事にも積極的に参加しているため防災訓練や畑の貸し出しなどの協力が得られています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念をリビングに掲げ、いつでも確認できるようにしている。また、「食事」「入浴」「排泄」について理念を具現化しマニフェストを作成。具体的内容となっている為、実践につなげられる。	「そっと寄り添い、共により添う」理念どおり日々職員同志共有し実践している。また、独自に職員で話し合っマニフェストを作成して、週一度の全体会議で確認し、介護の質を高める努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、毎月発行している「のどかの家熱海便り」新聞を回覧板で回して頂いている。地域で行われる行事等教えて下さり、利用者様は「健康講座」や「植栽」等参加し地域の方との交流をしている。	地域会議に参加し、地域の行事にも入居者と参加し、毎月発行している事業所の報告を回覧してもらうことにより、事業所の様子を地域の皆様に理解してもらおうと努めている。自治会長や近隣の方の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター研修」を地域の方に向け開催を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて現況報告や活動報告を行っている。「利用者様に園芸をやって頂きたいので、畑を借りられないか」という話をするとすぐに探して下さり、近所で畑を借りている。	運営推進会議は、2ヶ月に一度開催していて、地域の委員の参加も活発である。事業所の報告やヒヤリハット等の開示により、外部の意見を積極的に得ている。会議録は全職員が見て検討課題に活用している。家族にも月の便りと一緒に発送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	措置・生活保護受給者の担当者に毎月手紙と新聞を届け利用者様の様子や施設の取り組みを伝えている。また、運営推進会議に出席して下さっており施設の状況報告を行っている。	生活保護受給者の担当者とは定期的な報告と何かあった時にもすぐに対応出来るように連絡を密にとっている。運営推進会議後にも介護保険改正の内容や入居状況等意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、帰宅願望の強い入居者様には職員が外出に同行し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束に関して、職員は業務でも意識している。入社初期にはスピーチロックの研修等を行なっている。玄関の施錠はせず、外出の要望にはできるだけ叶えるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアル等にて周知している。社会福祉課の相談により虐待を受けている方の受入れも行なっている。他事業所からも虐待を受けている方の入居相談等受けており受入れの態勢にある。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	過去に成年後見人を付けた入居者様があり、現在も成年後見人の申し立てをする入居者様がいる為、成年後見人について学び、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つひとつ説明し不安や疑問点があればお答えして納得された上で署名・捺印されている。また、希望されれば予め契約書等送付し時間をかけて読んで頂く事も可能です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所にて相談窓口を設けており、いつでも意見要望等伺える体制にある。また運営推進会議の出席により意見を聴く場となっている。 意見箱の設置によりご家族や訪問者、入居者の意見が出しやすい環境を作っている。	意見箱を入り口の目につきやすいところに設置しており、入居の重要事項で第三者機関や相談窓口の説明をしている。改善の具体例として、衛生的な観点から布のスリッパを汚れの落としやすい素材のものに変えたケースがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議で業務に関してや入居者様に関する意見交換を行っている。 職員の提案により、本部に報告、相談し業務時間の変更を行い早い時期より夜勤者を各ユニットに配置し入居者様の安全に努めている。	月1回の会議で職員と管理者は意見交換を行なっている。出された職員の提案や要望は本社へ報告して判断を仰いでいる。今まで、職員のシフトの変更、物置の設置、暖房器具の購入等の改善がみられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社として、キャリアパス、人事考課制度を導入しており、個人の勤務状況や努力が評価される仕組みになっている為、各自が向上心を持って働ける環境にある。また、職員からの勤務条件等に関する相談は随時受け付け対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修等内部研修の他、外部での研修に関しても積極的に機会をつくり参加を促している。また、ヘルパー2級習得の為の助成金制度もあり、利用して習得した職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し協会主催の勉強会に参加している。他、地域の居宅部会や施設部会に出席し他事業所との情報交換等行っている。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後にご本人の希望を伺いサービスにつなげている。また、一人ひとりに担当職員を付け、その都度本人の話を聴き職員個人で解決出来ない事あれば管理者に報告し会議等で話し合い解決に導いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族等が困っている事や不安な事、要望等伺い可能な限り応えられるよう努めている。 入居されてからも電話や訪問時には、お話する時間を作るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談にてじっくり話を聴き必要としている事、希望している事を見極めその方に合ったサービスを提供出来るよう努めている。必要であれば他のサービス利用も提案出来るよう地域のケアマネやた事業所の管理者との情報交換にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に調理法を教えて頂いたり、難しい字や言葉を教えて頂く場面もある。利用者様は人生の先輩として敬意を払い、介護する側される側の関係にならないよう「そつと寄り添い共に寄り添う」の運営理念に基づいた関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	分からない事があればご家族に相談している。行事や運営推進会議開催時には案内を出し出席を促している。また、いつでも家族と電話で話す事や出掛けられる環境にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の手紙を希望の方には代筆し、電話の取次や小包の受渡し、友人の面会や家族との外出等いつでも出来て希望があれば馴染みの場所へ出掛けられる環境にありご本人が今まで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	お見舞いの同行や手紙、年賀状の代筆、電話の取次等できるだけの支援をしている。職員は日常の会話の中から入居者の意向や人間関係を汲み取るよう心がけ、どのようにしたら支援ができるか実現に向け行動している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設の行事やレクリエーションに参加して頂けるよう支援し利用者同士のコミュニケーションが円滑に運ぶよう努めている。また、気の合った方同士での外出等の支援にも努めている。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後入居中に撮った写真をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取組みはないが、ご本人・ご家族からの相談等あれば対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週1回個人のケアカンファレンスを行い、本人の思いや今後やっていきたい事等引き出している。1日置きの入浴の対応。お墓参りに行きたい方は毎日少しずつ歩行の練習を行い希望の実現に向けて励みとなっている。	ケアカンファレンスには本人も参加してもらい、希望や移行を聞いている。また職員は日常の会話からも思いや意向を感じ取り、実現に向け具体策を職員で話し合っており、実践している。日報は全職員が確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報より把握する他、分からない事があればご家族や担当していたケアマネ、ワーカー等関わりのある方からの情報収集に努め、今までの生活環境に近づけようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報や入居後の情報から一人ひとりの一日の過ごし方等把握している。暮らしの中でのご本人に関する事については、まずやって頂くようにし、その様子からその方の有する力や状態を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成時には、担当者会議を開催し、出来るだけご本人の参加を促し、ご家族の参加が難しい場合面会時等にお話をするようにしている。また、週1回のケアカンファレンスでもご本人の意見を聴く等、本人の意見を聴く機会を多く作っている。	職員は入居者の様子を観察し、対応がぶれないようにケアカンファレンスを週1回開催し、介護計画作成時には職員と家族、本人が参加し話し合いの場を設けている。家族の参加が難しい場合は来所時に声かけをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご本人の様子は介護記録や業務日報に記録し気づきや職員の意見等は申し送りノートに記載し職員間で情報を共有し実践や介護計画書の見直しにつなげている。また、朝のリーダー同士の申し送りにてその日の入居者の状況を2ユニット把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の「〇〇が欲しい」や「〇〇が食べたい」といった”～したい”に柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小中学校の行事や泉公園での植栽、他施設での夏祭りや文化祭への参加。泉支所で毎月行われる地域住民向けの勉強会や健康講座にも参加し説教的に地域の方との関わりを持って、いきいき生活されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診の他希望、必要時には皮膚科、心療内科の往診も行っている。緊急時にはいつでも電話にて相談し指示を仰ぐ事が出来る。入居前からのかかりつけ医や他科受診への受診支援も行っている。	協力医は緊急な対応や相談にも応じてくれていて、月2回の往診は家族の安心を得ている。また、かかりつけ医の受診は家族が行けない場合は職員が同行し、情報は家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部の看護師を兼務職員として配置。週1回勤務し入居者の状態を把握している。また、ナース連絡ノートを作成し気づき等を書き、勤務の際確認している。必要時や緊急時は電話にて指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	頻繁に面会に行き、ご本人の状態の把握に努めている。看護師や医師との情報交換や相談に努め、早期に退院出来るようまた、退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安定した生活が送られるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人・ご家族に説明しターミナルの同意書を頂いている。また、施設で出来る事を理解して頂き本人・家族の希望に沿った支援が出来るよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方は家族や職員、医療機関の連携が必要であることを法人は理解しているため入居時に同意書をとっている。本社の書類を参考にしてマニュアル作成に取り組んでいるが、職員研修までには至っていない。	現在、元気な入居者が多く、早急に対応を求められていないため、マニュアル作成や職員研修が進んでいませんが、急な状況変化にも対応できるように着実に作業を進めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、いつでも確認出来るようになっている。地域で行なわれる救命救急講習に参加し実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛防災組織を作り、各職員で係を決め、定期的に防災訓練を行なっている。地域の防災訓練にも参加し、運営推進会議にて火災や震災時の対策等議題として話し合っている。	災害、緊急時の職員連絡網や連絡手順が電話機の近くに掲示されている。防災の係を決め、訓練は日中、夜間想定で年2回行われている。自治会の防災訓練にも参加し、運営推進会議でも議題にあげ検討していて、地域住民の協力を得ている。備蓄は3日分ある。	訓練の必要性を理解し定期的に行なっているが、まだ不安な職員もいるので、季節想定などの訓練を継続して行うことを期待します。また、事業所の立地を考慮した課題の検討も期待します。

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳が守られるよう返事に困惑するようなプライベートな質問は控えて対応している。また、ミーティングにてプライバシーについて学んでいる。	職員の言葉がけは、まず入居者の言葉をじっくり「聞く」ことを重視していて、入居者それぞれのペースに合わせているので、入居者の表情は穏やかでゆったりしている。プライバシーについては入居者の意向を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の表情などを観察しながら声かけして返事を急がないように「ゆっくりでいいですよ」と付けくわえている。また、入浴等ご本人に入るか入らないか決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので、ある程度の時間的制約等ご理解頂ける所はお願いするが、職員側の都合優先にならないようご本人の希望やペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回の訪問美容室利用で個人の希望を尊重し支援している。また、希望時には外の美容室へ行くことも可能。外出時はお化粧をされたり、特におしゃれにも気を遣うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや状態に合わせて工夫している。盛付け等気を遣い食事を目でも楽しんで頂けるよう心がけている。また、個人の出来る力を活かして、下準備や盛付け・配膳等職員と一緒に出来るよう支援している。	食材はいろいろ試した結果、民間食材会社から取り寄せ、献立や内容は職員、入居者も満足している。足りないものは職員と入居者が買い物にでかけ、準備や片づけも一緒に行なっている。行事食や外食で気分転換をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については管理栄養士にて管理されており、水分摂取量は記録し把握できるようにしている。水分摂取困難な方にはゼリー等工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回の訪問歯科受診にて口腔衛生に努め、必要時には指導を受けて日々の口腔ケアに活かしている。		

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて個人の排泄パターンを把握し、必要な方は誘導する事により、トイレでの排泄が上手く行えている方もいる。また、入居時リハビリパンツを使用していたが、布のパンツに変更出来た方もいる。	排泄パターンを排泄表や入居者のしぐさから把握し、適切な声かけ、誘導が行われている。昼間は全員がトイレを使用している。職員で排泄のプライバシーについて研修をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便の把握・水分量の把握をしている。予防として腹部マッサージ・運動等を取り入れ、便秘時には牛乳を飲んで頂いたり、看護師と相談し、投薬については個別対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望をお聞きし対応している。時間帯は職員側で決めてしまう事が多いが、出来る限り本人の希望を尊重し、他者より遅い時間でも、勤務体制が可能な限り対応している。また、シャンプー剤や入浴剤など好みの物を使用することも可能である。	原則、一日おきの入浴であるが、希望があれば希望に添うようにしている。自立度の高い利用者同士で入浴されたり、好みに合わせシャンプーやリンスを購入したり、同性介助の希望にも応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動し、夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後横になりたい方は休んで頂く等適度に昼寝の時間も作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を添付し確認出来るようにしており把握するよう心がけている。薬の変更があった場合は特に経過観察をしている。配薬については誤薬が発生しないよう2名確認を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除や洗濯物をたたんで頂いたり生活の中で個々に役割を持って生活している。出掛ける事が好きな方には出来るだけ外出の機会を作る等、個別支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩・買い物・ドライブ等は実施している。また、ご家族と外出や外食をされる方もいる。希望を伺い誰でも外出・外食が出来る環境にある。帰宅希望等のある方については、職員が同行し一般道を歩く支援をする。(時により1時間程度)	職員と一緒に買物、散歩、ドライブに日常的に出かけている。家族が行けない場合に職員同行の受診時に希望により外食をしたり、帰宅願望の入居者とともにバスの時刻を確かめに出かけたりしている。また、今年から借りた畑に出かけることもある。	

静岡県(のどかの家熱海 花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の管理能力を考慮し、可能であれば所持して頂いて買い物に出掛けた際本人に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があればいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事前後にトイレが混雑する事がありますが、常に清潔を保つよう心掛けています。リビングにはテレビやソファを置き気に入った場所でくつろいでいます。対面式のキッチンにて献立についてお話ししながらの食事作りや材料を切る音・匂いで食欲をそそっています。	居間の三方が窓になっていて採光も眺めも良い。山に囲まれているため木々の緑が鮮やかで四季の移り変わりが感じられる。リビングではソファでくつろいだりキッチンの作業が見られたり各々くつろいでいる。壁には入居者の作品が飾られて暖かな雰囲気であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の座席の配置をしたり、リビングにソファを置きくつろげる空間がある。お茶を飲みながら職員も一緒に談笑しコミュニケーションを図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の馴染みの家具や寝具の持ち込みをお話し、安心して生活できる環境を整えるよう努めている。	居室は使い慣れたものが入居者が生活しやすいように持ち込まれ配置されている。大型テレビを持ち込んでいる入居者の部屋には時々他の入居者が集っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等手すりを設置し玄関にはスロープを設置している。個々の移動能力に応じ階段やエレベーターを使い分けている。タンスには何が入っているか表示し分かる様にしている。また、日めくりカレンダーを作成しその方の役割として毎日めくって頂いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人 のどか		
事業所名	グループホーム のどかの家熱海 星ユニット		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	平成24年8月13日	評価結果市町村受理日	平成24年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念である『そつとよりそい 共に寄りそう』の具現化に取り組み「食事を楽しむためにできる具体的支援」「用を足すためにできる具体的支援」「入浴を楽しむためにできる具体的支援」についてマニフェストを作成。方向性を一つに目に見える支援を目指します。 ・施設に入っても「諦めなくていい」本人がこだわっている事、大切にしている事を続けられる環境づくりに心がけ、今までの生活の延長で、自分らしく暮らしていられるよう支援します。 ・地域の行事等に積極的に参加し地域の方との交流を大切にしています。 ・ご家族から感謝の言葉を戴き職員への励みとなり、より良いサービス提供に繋がっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成24年9月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を意識しながら全職員が実践しているかという点も言えなかったが、具現化の取組みを実施した結果、少なからず職員の意識が変化したと思われる。利用者様本位のサービスに向かってきている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。 運営推進会議への参加や行事への参加をしてくださっている。 学校行事や地域行事への参加をさせて頂き交流を図っている。 他施設事業所との運営会議への参加		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による「認知症サポーター研修」を地域の方に向け開催を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて現況報告や活動報告を行っている。「利用者様に園芸をやって頂きたいので、畑を借りられないか」という話をするとすぐに探して下さり、近所で畑を借りている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	措置・生活保護受給者の担当者に毎月手紙と新聞を届け利用者様の様子や施設の取り組みを伝えている。 また、運営推進会議に出席して下さっており施設の状況報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、帰宅願望の強い入居者には職員が外出に同行し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアル等にて周知している。 社会福祉課の相談により虐待を受けている方の受入れもおこなっている。 他事業所からも虐待を受けている方の入居相談等受けており受入れの態勢にある。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見人を付けた入居者がおり、現在も成年後見人の申し立てをする入居者がいる為、成年後見人について学び、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つひとつ説明し不安や疑問点があればお答えして納得された上で署名・捺印されている。また、希望されれば予め契約書等送付し時間をかけて読んで頂く事も可能です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所にて相談窓口を設けており、いつでも意見要望等伺える体制にある。また運営推進会議の出席により意見を聴く場となっている。意見箱の設置によりご家族や訪問者、入居者の意見が出しやすい環境を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議で業務に関してや入居者に関する意見交換を行っている。職員の提案により、本部に報告、相談し業務時間の変更を行い早い時期より夜勤者を各ユニットに配置し入居者の安全に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社として、キャリアパス、人事考課制度を導入しており、個人の勤務状況や努力が評価される仕組みになっている為、各自が向上心を持って働ける環境にある。また、職員からの勤務条件等に関する相談は随時受け付け対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修等内部研修の他、外部での研修に関しても積極的に機会をつくり参加を促している。また、ヘルパー2級習得の為の助成金制度もあり、利用して習得した職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し協会主催の勉強会に参加している。他、地域の居宅部会や施設部会に出席し他事業所との情報交換等行っている。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談に於いての身体状況や要望事項等の情報を職員に伝達し、共有意識のもと会話や声掛けに配慮している。笑顔に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学をお勧めし、当施設の状況をご理解頂くよう努めている。また、入居後もなるべく多く関わりを持つようし、不安や要望にお応えできるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談の際、十分な時間をかけ希望されることに耳を傾けながら、必要事項を見極める努力をしている。また、地域の介護保険関連事業者と連携を取り、他のサービスの情報交換をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい暮らしを共にしていくため要望を取り入れ、日常の家事等一緒にさせていたっている。些細な会話でのやり取りを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議や行事開催についての案内を出させて頂き出席をお願いしている。また、利用者様の状況報告として手紙や写真を遅らせてもらっている。面会や共の外出も希望があればされている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の取次ぎ等できる環境にある。居室環境も馴染みの環境を考慮した配置や装飾に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な場できっかけ作りをしている。(団欒の場所を提供し談話されたり、共同作品をつくる機会を提供するなど)。また、気の合う方々との外出の機会も出来る環境である。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者様のご家族様様よりご連絡はありませんが、現時点では事例なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議・ケース会議を定期的 に実施している。モニタリングを行ない利用者様の要望や意向を把握している。また、個別に居室や入浴時など話しやすい環境の中でコミュニケーションをとるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報やご家族様の情報から馴染みの暮らしを理解するようにしている。日々の生活行動を観察するとともに、会話をたくさんとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前情報を参考に、まず、入居後の生活を見させていただき、ご自身の過ごし方を把握している。また、入浴・食事・家事・レク等の場面からその方の得意分野を知るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに於いてはご本人を交えて要望や意見を聴き、生活に反映できるようにしている。また、作成した計画についてはご本人・ご家族にご理解頂くよう説明を行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録や業務日報の記録・会議録等により情報を共有している。また、介護記録に於いては、気づきに着目し試行的に形式を変更し見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に沿った支援をしようと取り組んでいる。(下肢機能維持のための歩行練習・地域行事への参加・夜間外出・趣味会への参加等・外食等)		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として暮らせるよう地域の季節行事や学校行事・市内他施設のお祭り・作品展への参加を積極的にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段より健康状態を把握し、正確に状況報告する代弁者として支援している。訪問診療を実施しているが、定期往診日以外に於いても連絡・相談・指示を受けられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の身体状況を把握し、変化があれば報告し指示を貰うようにしている。往診記録により適切な対応を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	なるべく頻回に面会するよう心がけている。また、洗濯物や不足物品を届けるなど安心して医療を受けられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や入居時に説明と相談をさせて頂き、施設で出来る事をご理解いただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり職員勉強会を開催している。個々に救急救命講習会への参加をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の訓練実施や地域の防災訓練に参加して学習している。また、地域との協力体制においては、運営推進会議の中で地域の方々と協議している。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を損なわないよう常に頭に置いて声かけや対応を心掛けえている。職員勉強会を実施し、自覚を持ち業務に当たるよう投げかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の知見が優先され、利用者様の意思が反映されない状況にならないよう、自己決定でき得る自立支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のタイムスケジュールや都合で決定するのではなく、ご本人の意思に準じた対応や支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の活用(2カ月に1度) 個人の趣味を尊重し支援している。 また、素敵な装いや行動に対しては誉め言葉で声かけするよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や盛付け・配膳等を一緒に行なっている。食器選びや飲み物の選択をお願いすることもある。また、四季折々の季節料理や行事食・誕生日食等の工夫をしている。外食支援も実施。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については栄養士にて管理されている。水分量は記録にて把握しており、特に夏季は注意し様々な工夫をし摂取して頂いている。また、嗜好品も個人を尊重し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1度歯科の往診がある。日々の口腔ケアは個々に声かけし支援している。義歯洗浄など個別性があるものは十分に注意し実施している。		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	観察記録を利用しながら排泄の状況を把握し、尊厳を守りつつ、促しや誘導にてレベルアップできるよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は記録表で把握している。予防として朝食前の野菜ジュース摂取を実施している。また、腹部マッサージ・運動等を取り入れ、看護師と相談し、投薬については個別対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望をお聞きし対応している。見守り支援の方については、勤務体制が可能な限りシャワーで対応している。また、シャンプー剤や入浴剤など好みの物を使用することも可能である。希望により同性介助を行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向を予防するため、日中の活動性を高めるよう働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を添付し確認出来るようにしており把握するよう心がけている。薬の変更があった場合は特に経過観察をしている。配薬については誤薬が発生しないよう2名確認を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で積極的に家事をこなしてくれるため役割としてお願いしている。個々の支援計画にそった外出等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩・買い物・ドライブ等は実施している。また、ご家族の希望でご家族と外食される方もいる。希望により外食の機会を設けている。帰宅希望等のある方については、職員が同行し一般道を歩く支援をする。(時により1時間程度)		

静岡県(のどかの家熱海 星ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の管理能力を考慮し、可能であれば所持していただき使用していただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があればいつでも対応できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーと一緒に作成し季節感のあるものになっている。 トイレの使用頻度が高く、汚染することが多いため常に清潔に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士の座席の配置をしたり、居室に椅子を置き共に過ごせる空間がある。また、リビングにソファを置きくつろげる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の馴染みの家具や寝具の持ち込みをお話し、安心して生活できる環境を整えるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは男性用・女性用と表示し混乱が起きないようにした。居室においてはベッドの位置や向き・高さ等、安全性を第1に設置している。		